

○ 土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛について（平成 15 年 3 月 28 日 14 農振第 2694 号農村振興局整備部長通知）新旧対照表

（下線部は改正部分）

改 正 後	現 行																																																
<h2 style="margin: 0;">1. 土 工</h2> <p>① バックホウ掘削（超ロングアーム仕様）</p> <p>1. ～4. [略]</p> <p>5. 単価表 (1)・(2) [略]</p> <p>(3) 機械運転単価表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">機 械 名</th> <th style="width: 25%;">規 格</th> <th style="width: 15%;">適用単価表</th> <th style="width: 35%;">指 定 事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バックホウ（超ロングアーム仕様）</td> <td>排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td> <td>機-18</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>86</u> 機械損料数量→1.47</td> </tr> <tr> <td>ダンプトラック</td> <td>10t 積級</td> <td>機-22</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>58</u> 機械損料数量→1.24</td> </tr> </tbody> </table> <p>② ダンプトラック運搬（標準以外）</p> <p>1. ・2. [略]</p> <p>3. 単価表 (1) [略]</p> <p>(2) 機械運転単価表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">機 械 名</th> <th style="width: 25%;">規 格</th> <th style="width: 15%;">適用単価表</th> <th style="width: 35%;">指 定 事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダンプトラック</td> <td>4t 積級</td> <td>機-22</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>33</u> 機械損料数量→1.16</td> </tr> <tr> <td>ダンプトラック</td> <td>2t 積級</td> <td>機-22</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>20</u> 機械損料数量→1.17</td> </tr> </tbody> </table> <p>③・④ [略]</p>	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	バックホウ（超ロングアーム仕様）	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>86</u> 機械損料数量→1.47	ダンプトラック	10t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>58</u> 機械損料数量→1.24	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	ダンプトラック	4t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>33</u> 機械損料数量→1.16	ダンプトラック	2t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>20</u> 機械損料数量→1.17	<h2 style="margin: 0;">1. 土 工</h2> <p>① バックホウ掘削（超ロングアーム仕様）</p> <p>1. ～4. [略]</p> <p>5. 単価表 (1)・(2) [略]</p> <p>(3) 機械運転単価表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">機 械 名</th> <th style="width: 25%;">規 格</th> <th style="width: 15%;">適用単価表</th> <th style="width: 35%;">指 定 事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バックホウ（超ロングアーム仕様）</td> <td>排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m³ (平積 0.3m³)</td> <td>機-18</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>91</u> 機械損料数量→1.47</td> </tr> <tr> <td>ダンプトラック</td> <td>10t 積級</td> <td>機-22</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>69</u> 機械損料数量→1.24</td> </tr> </tbody> </table> <p>② ダンプトラック運搬（標準以外）</p> <p>1. ・2. [略]</p> <p>3. 単価表 (1) [略]</p> <p>(2) 機械運転単価表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">機 械 名</th> <th style="width: 25%;">規 格</th> <th style="width: 15%;">適用単価表</th> <th style="width: 35%;">指 定 事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダンプトラック</td> <td>4t 積級</td> <td>機-22</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>36</u> 機械損料数量→1.16</td> </tr> <tr> <td>ダンプトラック</td> <td>2t 積級</td> <td>機-22</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>22</u> 機械損料数量→1.17</td> </tr> </tbody> </table> <p>③・④ [略]</p>	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	バックホウ（超ロングアーム仕様）	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>91</u> 機械損料数量→1.47	ダンプトラック	10t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>69</u> 機械損料数量→1.24	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	ダンプトラック	4t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>36</u> 機械損料数量→1.16	ダンプトラック	2t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>22</u> 機械損料数量→1.17
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																														
バックホウ（超ロングアーム仕様）	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>86</u> 機械損料数量→1.47																																														
ダンプトラック	10t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>58</u> 機械損料数量→1.24																																														
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																														
ダンプトラック	4t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>33</u> 機械損料数量→1.16																																														
ダンプトラック	2t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>20</u> 機械損料数量→1.17																																														
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																														
バックホウ（超ロングアーム仕様）	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.4m ³ (平積 0.3m ³)	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>91</u> 機械損料数量→1.47																																														
ダンプトラック	10t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>69</u> 機械損料数量→1.24																																														
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																														
ダンプトラック	4t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>36</u> 機械損料数量→1.16																																														
ダンプトラック	2t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>22</u> 機械損料数量→1.17																																														

2. 共通工

①～③ [略]

④ 石積類とりこわし

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1)～(3) [略]

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大 型 プ レ ー カ		機-3	機械損料1→大型ブレーカ 油圧式 1,300kg 級 機械損料2→バックホウ 排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 (クレーン機能付) 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	機-1	
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 (クレーン機能付) 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →87 機械賃料数量 →1.35

⑤ 骨材再生工(自走式)

1. ・ 2. [略]

3. 自走式破碎機設置・撤去工

3-1・3-2 [略]

3-3 諸雑費

諸雑費は、自走式破碎機付属機(磁力式選別機、振動ふるい機、ベルトコンベア)等の費用であり、労務費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 3. 3 諸雑费率 (%)

諸 雑 費 率	7
---------	---

4. [略]

5. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大 型 プ レ ー カ + バ ッ ク ホ ウ	[バックホウ] 排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積 0.6m ³ (平積 0.5m ³)	機-20	機械損料1→バックホウ 運転労務数量→1.00 燃料消費量→72 機械損料数量→1.15

2. 共通工

①～③ [略]

④ 石積類とりこわし

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1)～(3) [略]

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大 型 プ レ ー カ		機-3	機械損料1→大型ブレーカ 油圧式 1,300kg 級 機械損料2→バックホウ 排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 (クレーン機能付) 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	機-1	
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 (クレーン機能付) 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →93 機械賃料数量 →1.35

⑤ 骨材再生工(自走式)

1. ・ 2. [略]

3. 自走式破碎機設置・撤去工

3-1・3-2 [略]

3-3 諸雑費

諸雑費は、自走式破碎機付属機(磁力式選別機、振動ふるい機、ベルトコンベア)の費用であり、労務費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 3. 3 諸雑费率 (%)

諸 雑 費 率	8
---------	---

4. [略]

5. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大 型 プ レ ー カ + バ ッ ク ホ ウ	[バックホウ] 排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積 0.6m ³ (平積 0.5m ³)	機-20	機械損料1→バックホウ 運転労務数量→1.00 燃料消費量→72 機械損料数量→1.15

	[大型ブレーカ] <u>(ベースマシン含まず)</u> 油圧式 600～800kg 級		機械損料 2→大型ブレーカ 機械損料数量→1.15
バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クロー型山積 1.0m ³ （平積 0.7m ³ ）	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>104</u> 機械損料数量→1.12
自走式破砕機	機械質量 30 t 級 供給口開き 450 mm 幅 925 mm	機-24	燃料消費量→ <u>177</u> 機械損料数量→1.69

(注) [略]

⑥～⑨ [略]

[削る。]

	[大型ブレーカ] 油圧式 600～800kg 級		機械損料 2→大型ブレーカ 機械損料数量→1.15
バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クロー型山積 1.0m ³ （平積 0.7m ³ ）	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>110</u> 機械損料数量→1.12
自走式破砕機	機械質量 30 t 級 供給口開き 450 mm 幅 925 mm	機-24	燃料消費量→ <u>169</u> 機械損料数量→1.69

(注) [略]

⑥～⑨ [略]

⑩ コンクリート矢板工

1. 適用範囲

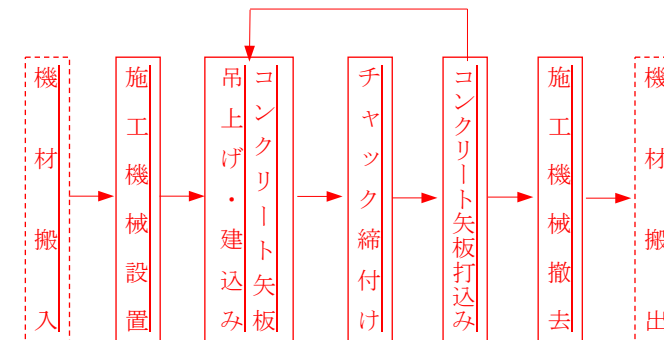
本歩掛は、コンクリート矢板（矢板幅 B=50cm 及び 100cm）を、電動式バイプロハンマ及び電動式バイプロハンマとウォータージェット併用（貫入フレーム先行）により施工（打込み）する場合に適用する（以下、バイプロ工法及びウォータージェット併用工法と称す）。

なお、本歩掛における「コンクリート矢板」とは、「JIS A 5372 附属書 B（規定）擁壁類」及び「JIS A 5373 附属書 C（規定）擁壁類」に規定されたもののうち、幅 50 cm の場合、高さ 50～160 mm、幅 100 cm の場合、高さ 50～255 mm で、コンクリート矢板長 2～9 m のものをいう。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

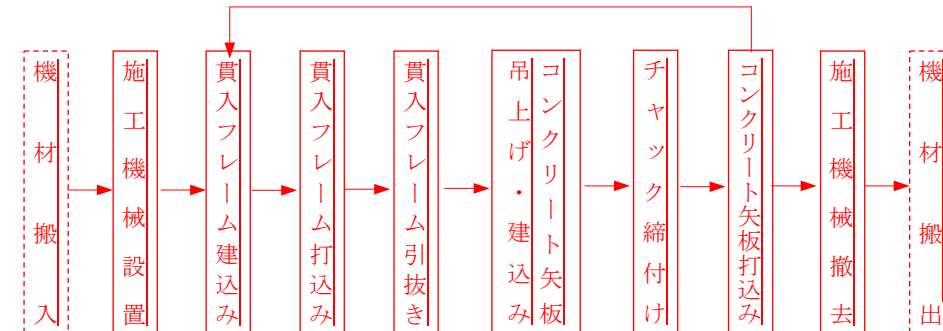
図 2-1 バイプロ工法



※導材（ガイド）の施工を含む。

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図 2-2 ウォータージェット併用工法



※導材（ガイド）の施工を含む。

(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

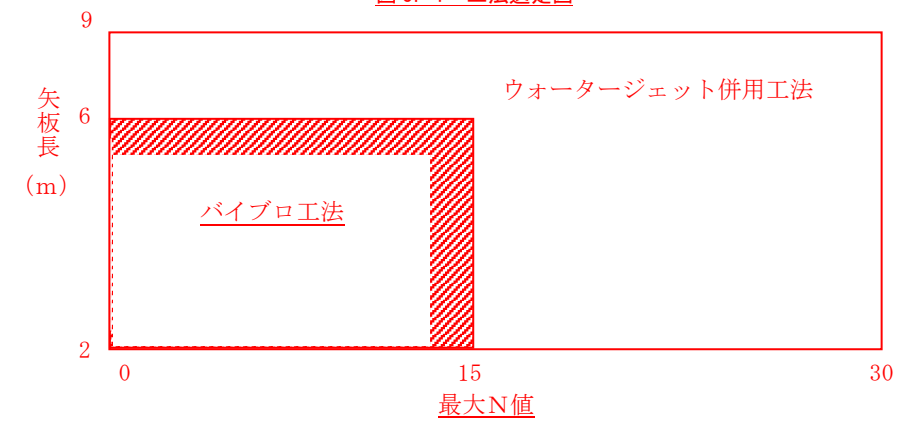
2. ウォータージェット併用工法は、貫入フレーム先行後にコンクリート矢板を打込む場合に適用するものとし、ウォータージェットとコンクリート矢板を同時に打込む場合は、別途考

慮するものとする。

3. 工法の選定

パイプロ工法とウォータージェット併用工法の選定は、次図を標準とする。

図 3. 1 工法選定図



(注) 1. 矢板長とはコンクリート矢板全長のことであり、コンクリート矢板打込長とは異なる。

2. 矢板長が6m以下で、かつ最大N値が15以下であっても、転石等により、やむを得ない場合に限り、ウォータージェット併用工法を選定できる。

4. 機種を選定

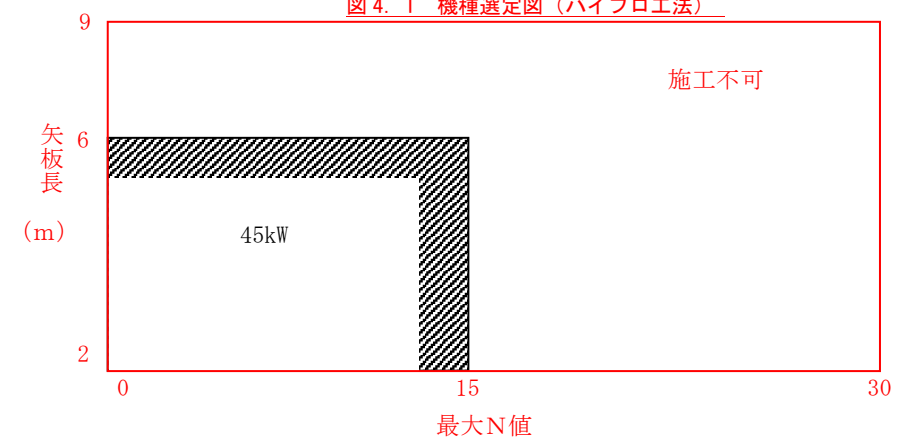
4-1 打込機械

4-1-1 電動式パイプロハンマ

機種・規格は、次図を標準とする。

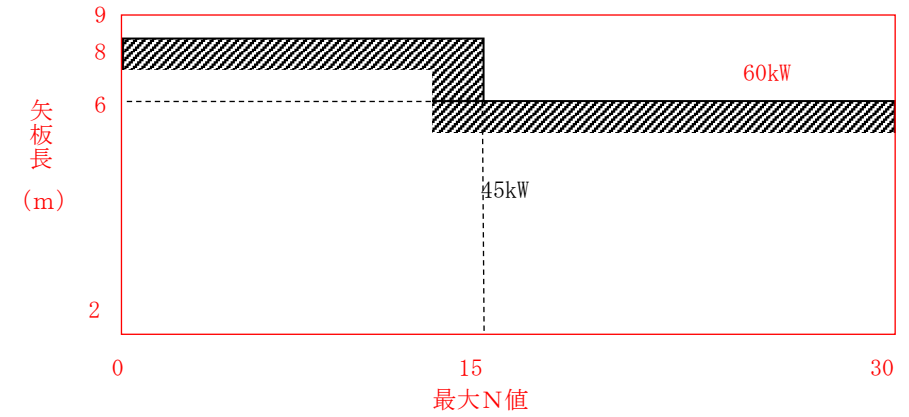
(1) パイプロ工法

図 4. 1 機種選定図 (パイプロ工法)



(2) ウォータージェット併用工法

図 4. 2 機種選定図 (ウォータージェット併用工法)



(注) 矢板長が6 m以下で、かつ最大N値が15以下であって、転石等により、やむを得ずウォータージェット併用工法を選定する場合、パイプロハンマ出力は45kWとする。

4-1-2 クローラクレーン

クローラクレーンの機種・規格は、次表を標準とするが、現場条件によりこれにより難しい場合は、別途考慮することができる。

表 4. 1 クローラクレーンの規格

パイプロ出力 (kW)	クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) の規格	
	吊能力 (t 吊)	
45	30~35	
60	40~45	

4-1-3 杭打ち用ウォータージェット (電動式)

表 4. 2 杭打ち用ウォータージェット (電動式) の規格

	杭打ち用ウォータージェット (電動式) の規格	
	ポンプ圧力	吐出量
ウォータージェット併用工法	0.5~0.9 MPa (5~9kg/cm ²)	1,400ℓ/min

(注) 1. 杭打ち用ウォータージェット (電動式) には貫入フレーム、先端ノズル、高圧ホース等を含む。
2. 現場条件により濁水処理が必要な場合は、別途計上する。

5. 編成人員

コンクリート矢板工の編成人員は、次表を標準とする。

表 5. 1 標準編成人員 (人)

工 法	職 種	世 話 役	と び 工	普通作業員
パイプロ工法		1	2	1
ウォータージェット併用工法		1	2	1

6. 日当り施工枚数

6-1 打込み

コンクリート矢板の1日当り打込み枚数 (N) は、次表を標準とする。

表 6. 1 日当り施工枚数 (N)

(枚/日)

最大N値 打込長 (m)	矢板幅	Nmax ≤ 15		15 < Nmax ≤ 30	
		B = 50 cm	B = 100 cm	B = 50 cm	B = 100 cm
1以下		<u>41</u> (28)	<u>31</u> (22)	<u>27</u>	<u>21</u>
2以下		<u>31</u> (24)	<u>24</u> (19)	<u>22</u>	<u>17</u>
3以下		<u>25</u> (21)	<u>19</u> (16)	<u>19</u>	<u>15</u>
4以下		<u>21</u> (18)	<u>16</u> (14)	<u>16</u>	<u>13</u>
5以下		<u>18</u> (16)	<u>13</u> (13)	<u>15</u>	<u>11</u>
6以下		<u>16</u> (15)	<u>12</u> (11)	<u>13</u>	<u>10</u>
7以下		<u>13</u>	<u>10</u>	<u>12</u>	<u>9</u>
8以下		<u>12</u>	<u>9</u>	<u>11</u>	<u>8</u>
9以下		<u>11</u>	<u>9</u>	<u>10</u>	<u>8</u>

- (注) 1. 矢板長が6m以下で、かつ最大N値が15以下であって、転石等により、やむを得ずウォータージェットを使用する必要が生じた場合、()書きの数値を使用するものとする。
2. 施工枚数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

6-2 諸雑費

諸雑費は、次表のとおりとする。

施工区分	パイプロハンマ規格	諸雑费率 (%)
パイプロハンマ工法	45kW	<u>20</u>
	60kW	<u>24(23)</u>
ウォータージェット併用工法	45kW	<u>19(19)</u>
	60kW	<u>24(23)</u>

- (注) 1. 諸雑費は、導材(ガイド)損料、けん引機損料、ガイドローラ損料、ウォータージェット併用工法用付属機器運転経費(水中ポンプ運転経費、水槽損料)及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。
2. ウォータージェット併用工法でのウォータージェット用水は、河川や湾岸等の水源より揚水することを標準とする。
3. 水源が現場にない場合の諸雑费率は、()書きの数値を使用するものとし、給水に要する費用は別途計上する。

7. 単価表

(1) パイプロ工法によるコンクリート矢板打込み 10枚当り単価表 (打込長〇〇m)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 5. 1 表 6. 1
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃

普通作業員		人	$\frac{10}{N} \times 1$	人
コンクリート矢板		枚	10	
電動式バイプロハンマ杭打機 運転		日	$\frac{10}{N}$	表 4. 1 表 6. 1
諸 雑 費		式	1	表 6. 2
計				

(注) N：日当り施工枚数(枚/日)

(2) ウォータージェット併用法によるコンクリート矢板打込み 10 枚当り単価表 (打込長〇〇m)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 5. 1 表 6. 1
と び 工		人	$\frac{10}{N} \times 2$	人
普通作業員		人	$\frac{10}{N} \times 1$	人
コンクリート矢板		枚	10	
電動式バイプロハンマ杭打機 運転		日	$\frac{10}{N}$	表 4. 1 表 6. 1
杭打ち用ウォータージェット運転		人	$\frac{10}{N}$	表 4. 2 人
諸 雑 費		式	1	表 6. 2
計				

(注) N：日当り施工枚数(枚/日)

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
電動式バイプロハンマ杭打機	コンクリート矢板用 45kW 60kW	機-20	運 転 労 務 →1.00 燃 料 消 費 量 →49 機 械 損 料 1 →電動式バイプロハンマ (コンクリート矢板用 45kW、60kW) 機 械 損 料 数 量 →1.50 機 械 損 料 2 →クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 30～35 t 吊、40～45 t 吊) 機 械 損 料 数 量 →1.50
杭打ち用ウォータージェット	[電動式]ポンプ圧力 0.5～0.9MPa (5～9kg/cm ²) 吐 出 量 1,400ℓ/min	機-25	機 械 損 料 数 量 →1.50

4. 基礎工

[削る。]

4. 基礎工

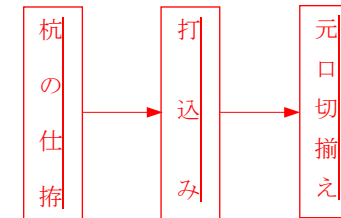
① 木杭打込み（人力）

1. 適用範囲

本歩掛は、掛矢等を用いた杭径6～15cm、杭長1.2m、1.5mの木杭打込み（概ね50本程度）に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



3. 施工歩掛

3-1 木杭打込歩掛

世話役及び普通作業員の内訳数量は次式による。

$$SY2 = SY1 \times KNK \times DSK \text{ (人/50本)} \dots\dots \text{(式3.1) (小数第3位四捨五入2位止まり)}$$

$$FS2 = FS1 \times KNK \times DSK \text{ (人/50本)} \dots\dots \text{(式3.2) (小数第3位四捨五入2位止まり)}$$

SY1：世話役の歩掛 (表3.1)

SY2：世話役の内訳数量

FS1：普通作業員の打込み歩掛 (表3.1)

FS2：普通作業員の内訳数量

KNK：根入係数 (表3.2)

DSK：土質係数 (表3.3)

3-1-1 施工歩掛

表3.1 施工歩掛 (人/50本)

杭長	職種	末口径			
		6cm	9cm	12cm	15cm
1.2m	世話役	0.5	0.5	0.5	—
	普通作業員	2.5	4.0	6.0	—
1.5m	世話役	0.5	0.5	0.5	0.5
	普通作業員	3.0	6.0	9.0	12.5

(注) 杭の仕揃（皮削り、防腐剤塗布等の加工）、元口切揃え及び、移動手間、打込み後の整形を含む。

3-1-2 根入係数（KNK）

根入係数は、次表を標準とする。

表3.2 根入係数

根入率	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0
根入係数	0.03	0.08	0.15	0.24	0.35	0.48	0.63	0.81	1.00	1.21

(注) 根入率=根入長（m）/杭長（m）…小数第2位四捨五入1位止まり

① 木杭打込み（機械）

1. ～ 4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 プ レ ー カ (バックホウ装着)	バケツ容量0.4m ³	機-28	運 転 労 務 数 量 → 1.00 燃 料 消 費 量 → 37 機 械 賃 料 数 量 1 → 1.10 排出ガス対策型（第1次基準値） バケツ杓(クロー型 0.45m ³ 平積0.35m ³) 機 械 賃 料 数 量 2 → 1.10 油圧ブレーカ(バケツ容量0.4m ³ 、アタッチメントのみ)

② 中層混合処理工

1. ～ 4. [略]

5. 施工歩掛

5-1・5-2 [略]

5-3 諸雑費

諸雑費は、足場材（敷鉄板（中層混合処理機用・スラリープラント用））の賃料及び設置・撤去・移設に要する費用（バックホウ運転費用）、攪拌混合装置の損耗材料費（チェーン、攪拌翼、切削刃、ガイドローラ、スプロケット、アイドラーの各部品費）、空気圧縮機の賃料及び運転経費、電力に関する経費等の費用及び改良後の整地に要する費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上す

3-1-3 土質係数（DSK）

土質係数は、次表を標準とする。

表 3. 3 土質係数

土 質	土質係数
飽和した砂、ローム、粘土	1.00
湿った赤土、粘土	0.80
軟弱地盤	0.70

4. 単価表

(1) 木杭打込み（人力）50本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	SY2	式 3. 1
普 通 作 業 員		人	FS2	式 3. 2
木 杭		本	50	
計				

② 木杭打込み（機械）

1. ～ 4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 プ レ ー カ (バックホウ装着)	バケツ容量0.4m ³	機-28	運 転 労 務 数 量 → 1.00 燃 料 消 費 量 → 40 機 械 賃 料 数 量 1 → 1.10 排出ガス対策型（第1次基準値） バケツ杓(クロー型 0.45m ³ 平積0.35m ³) 機 械 賃 料 数 量 2 → 1.10 油圧ブレーカ(バケツ容量0.4m ³ 、アタッチメントのみ)

③ 中層混合処理工

1. ～ 4. [略]

5. 施工歩掛

5-1・5-2 [略]

5-3 諸雑費

諸雑費は、足場材（敷鉄板（中層混合処理機用・スラリープラント用））の賃料及び設置・撤去・移設に要する費用（バックホウ運転費用）、攪拌混合装置の損耗材料費（チェーン、攪拌翼、切削刃、ガイドローラ、スプロケット、アイドラーの各部品費）、空気圧縮機の賃料及び運転経費、電力に関する経費等の費用及び改良後の整地に要する費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上す

る。

表 5. 4 諸雑費率 (%)

改良深度 L (m)	諸雑費率
2 m < L ≤ 5 m	32
5 m < L ≤ 8 m	23
8 m < L ≤ 10m	24
10m < L ≤ 13m	24

5 - 4 [略]

6. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
中層混合処理機 トレンチャ式	ヘースマシン 20t (山積 0.8m ³) 級ハックホ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 5 m 施工管理装置 1ヒースプーム用	機-20	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →113 機械損料数量1(ヘースマシン) →1.66 機械損料数量2(攪拌混合装置) →1.66 機械損料数量3(施工管理装置) →1.66
	ヘースマシン 30t (山積 1.4m ³) 級ハックホ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 8 m 施工管理装置 1ヒースプーム用	機-20	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →183 機械損料数量1(ヘースマシン) →1.66 機械損料数量2(攪拌混合装置) →1.66 機械損料数量3(施工管理装置) →1.66
	ヘースマシン 40t (山積 1.9m ³) 級ハックホ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 10m 施工管理装置 1ヒースプーム用	機-20	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →233 機械損料数量1(ヘースマシン) →1.66 機械損料数量2(攪拌混合装置) →1.66 機械損料数量3(施工管理装置) →1.66
	ヘースマシン 40t (山積 1.9m ³) 級ハックホ (2ヒースプーム) 攪拌混合装置 改良深度(標準) 13m 施工管理装置 2ヒースプーム用	機-20	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →233 機械損料数量1(ヘースマシン) →1.66 機械損料数量2(攪拌混合装置) →1.66 機械損料数量3(施工管理装置) →1.66
深層混合処理機 (スラリー式)	スラリープラント (全自動) 能力 20m ³ /h	機-25	機械損料数量 →1.66

る。

表 5. 4 諸雑費率 (%)

改良深度 L (m)	諸雑費率
2 m < L ≤ 5 m	32
5 m < L ≤ 8 m	24
8 m < L ≤ 10m	24
10m < L ≤ 13m	24

5 - 4 [略]

6. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
中層混合処理機 トレンチャ式	ヘースマシン 20t (山積 0.8m ³) 級ハックホ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 5 m 施工管理装置 1ヒースプーム用	機-20	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →118 機械損料数量1(ヘースマシン) →1.66 機械損料数量2(攪拌混合装置) →1.66 機械損料数量3(施工管理装置) →1.66
	ヘースマシン 30t (山積 1.4m ³) 級ハックホ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 8 m 施工管理装置 1ヒースプーム用	機-20	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →195 機械損料数量1(ヘースマシン) →1.66 機械損料数量2(攪拌混合装置) →1.66 機械損料数量3(施工管理装置) →1.66
	ヘースマシン 40t (山積 1.9m ³) 級ハックホ 攪拌混合装置 改良深度(標準) 10m 施工管理装置 1ヒースプーム用	機-20	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →251 機械損料数量1(ヘースマシン) →1.66 機械損料数量2(攪拌混合装置) →1.66 機械損料数量3(施工管理装置) →1.66
	ヘースマシン 40t (山積 1.9m ³) 級ハックホ (2ヒースプーム) 攪拌混合装置 改良深度(標準) 13m 施工管理装置 2ヒースプーム用	機-20	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →251 機械損料数量1(ヘースマシン) →1.66 機械損料数量2(攪拌混合装置) →1.66 機械損料数量3(施工管理装置) →1.66
深層混合処理機 (スラリー式)	スラリープラント (全自動) 能力 20m ³ /h	機-25	機械損料数量 →1.66

5. 河川・水路工

① 浚渫工（ポンプ式浚渫船）

1. ～5. [略]

6. 単価表

(1)～(15) [略]

(16) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ポンプ浚渫船	電動機式 E200PS 型	機-14	電力消費量 →2,340
	電動機式 E500PS 型		電力消費量 →5,850
	ディーゼル式 D250PS 型	機-12	燃料消費量 →重油 910
	ディーゼル式 D420PS 型		燃料消費量 →重油 1,560
	ディーゼル式 D600PS 型		燃料消費量 →重油 2,210
	ディーゼル式 D800PS 型		燃料消費量 →重油 2,860
	ディーゼル式 D1,350PS 型		燃料消費量 →重油 4,940
揚 錨 船	D1 t 吊	機-12	燃料消費量 →重油 48
	D3 t 吊		燃料消費量 →重油 72
	D5 t 吊		燃料消費量 →重油 90
揚 錨 船 [排砂管及びフロー タ設置・撤去]	D1 t 吊	機-24	燃料消費量 →重油 48 機械損料数量→1.62
	D3 t 吊		燃料消費量 →重油 72 機械損料数量→1.62
	D5 t 吊		燃料消費量 →重油 90 機械損料数量→1.62
交 通 船	D30PS 型 3.0GT	機-12	燃料消費量 →重油 17
	D50PS 型 4.9GT		燃料消費量 →重油 29
	D60PS 型 6.0GT		燃料消費量 →重油 34
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t	機-18	[排砂管及び受枠設置・撤去] 運転労務数量→1.00 燃料消費量 → <u>113</u> 機械損料数量→1.46
			[排砂管及びフロータ設置・撤去] 運転労務数量→1.00 燃料消費量 → <u>110</u> 機械損料数量→1.46
ブ ル ド ー ザ	湿地・排出ガス対策型 (第1次基準値) 13t 級	機-1	

② 浚渫工（バックホウ浚渫船）

1. [略]

2. 施工概要

バックホウ浚渫船は、スパッド付台船等に搭載されたバックホウにて、河床等の土砂を掘削し、土運船等にて土砂の運搬を行う。

施工フローは、次図を標準とする。

[略]

5. 河川・水路工

① 浚渫工（ポンプ式浚渫船）

1. ～5. [略]

6. 単価表

(1)～(15) [略]

(16) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ポンプ浚渫船	電動機式 E200PS 型	機-14	電力消費量 →2,340
	電動機式 E500PS 型		電力消費量 →5,850
	ディーゼル式 D250PS 型	機-12	燃料消費量 →重油 910
	ディーゼル式 D420PS 型		燃料消費量 →重油 1,560
	ディーゼル式 D600PS 型		燃料消費量 →重油 2,210
	ディーゼル式 D800PS 型		燃料消費量 →重油 2,860
	ディーゼル式 D1,350PS 型		燃料消費量 →重油 4,940
揚 錨 船	D1 t 吊	機-12	燃料消費量 →重油 48
	D3 t 吊		燃料消費量 →重油 72
	D5 t 吊		燃料消費量 →重油 90
揚 錨 船 [排砂管及びフロー タ設置・撤去]	D1 t 吊	機-24	燃料消費量 →重油 48 機械損料数量→1.62
	D3 t 吊		燃料消費量 →重油 72 機械損料数量→1.62
	D5 t 吊		燃料消費量 →重油 90 機械損料数量→1.62
交 通 船	D30PS 型 3.0GT	機-12	燃料消費量 →重油 17
	D50PS 型 4.9GT		燃料消費量 →重油 29
	D60PS 型 6.0GT		燃料消費量 →重油 34
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t	機-18	[排砂管及び受枠設置・撤去] 運転労務数量→1.00 燃料消費量 → <u>120</u> 機械損料数量→1.46
			[排砂管及びフロータ設置・撤去] 運転労務数量→1.00 燃料消費量 → <u>117</u> 機械損料数量→1.46
ブ ル ド ー ザ	湿地・排出ガス対策型 (第1次基準値) 13t 級	機-1	

② 浚渫工（バックホウ浚渫船）

1. [略]

2. 施工概要

バックホウ浚渫船は、スパッド付台船等に搭載されたバックホウにて、河床等の土砂を掘削し、土運船等にて土砂の運搬を行う。

施工フローは、次図を標準とする。

[略]

- (注) 1. [略]
 2. 汚濁防止フェンス又は汚濁防止柵 および汚濁防止膜 については、掘削時に濁水の拡散により、水質等の影響がある場合に、別途計上する。
 3. ・4. [略]

3. [略]

4. 浚渫船の運転

4-1 浚渫能力 (単位時間当り浚渫量)
 [略]

表 4. 1 土質係数 (α)

土質		N 値	係数
分類			
粘性土		10 未満	1.00
砂質土及び砂		10 <u>以上</u> 30 未満	0.68
礫質土		30 <u>以上</u> 50 未満	0.56

表 4. 2 作業係数 (E) [略]

4-2 バックホウ 浚渫船運転労務費
 4-2-1 [略]

- 4-2-2 休転日数と運転日数
 浚渫期間中における、バックホウ 浚渫船の 1 箇月当り 休転日は、次表のとおりとする。
 月間計画浚渫土量並びに計画浚渫期間を決定する際に、次表の休転日数以外を月間運転日数とする。

表 4. 4 バックホウ浚渫船の 1 箇月当り休転日 [略]

4-3 繫船費
 [略]

表 4. 5 運転準備及び後片付け期間

	日数
運転準備期間	2 (5)
後片付け期間	2 (5)

(注) 汚濁防止フェンス設置時は、() 内の 日数 とする。

4-4 [略]

4-5 土運船運転費
 バックホウ浚渫船より掘削した土砂を、土運船で陸揚げ場まで運搬又は海上処分場まで運搬するのに要する費用である。

- 4-5-1 機種の選定
 機種・規格は、次表を標準とする。

表 4. 6 機種の選定

作業種別	土運船			引船			摘要
	規格	単位	数量	規格	単位	数量	
1 日当り平均浚渫量 215m ³ 以下	密閉式 100m ³ 積	隻	2	鋼製 D300PS 型 25GT	隻	2	
1 日当り平均浚渫量 <u>215m³ 超え</u> 645m ³ 以下	密閉式 300m ³ 積	"	2	鋼製 D500PS 型 40GT	"	2	

(注) [略]

- 4-5-2 編成人数
 土運船及び引船の日当り編成人数は、次表を標準とする。

表 4. 7 日当り編成人数 (人/日)

作業種別	土運船			引船	
	普通船員	高級船員	普通船員	高級船員	普通船員
1 日当り平均浚渫量	2	2	—		

- (注) 1. [略]
 2. 汚濁防止フェンス又は汚濁防止柵 (バックホウ浚渫船用付属品) については、掘削時に濁水の拡散により、水質等の影響がある場合に、別途計上する。
 3. ・4. [略]

3. [略]

4. 浚渫船の運転

4-1 浚渫能力 (単位時間当り浚渫量)
 [略]

表 4. 1 土質係数 (α)

土質		N 値	係数
分類			
粘性土		10 未満	1.00
砂質土及び砂		10 <u>～</u> 30 未満	0.68
礫質土		30 <u>～</u> 50 未満	0.56

表 4. 2 作業係数 (E) [略]

4-2 浚渫船運転労務費
 4-2-1 [略]

- 4-2-2 休転日数と運転日数
 浚渫期間中における、浚渫船の休転日は、次表のとおりとする。
 月間計画浚渫土量並びに計画浚渫期間を決定する際に、次表の休転日数以外を月間運転日数とする。

表 4. 4 バックホウ浚渫船の 1 箇月当り休転日 [略]

4-3 繫船費
 [略]

表 4. 5 運転準備及び後片付け期間

	日数
運転準備期間	2 (5)
後片付け期間	2 (5)

(注) 汚濁防止フェンス設置時は、() 内とする。

4-4 [略]

4-5 土運船運転費
 バックホウ浚渫船より掘削した土砂を、土運船で陸揚げ場まで運搬又は海上処分場まで運搬するのに要する費用である。

- 4-5-1 機種の選定
 機種・規格は、次表を標準とする。

表 4. 6 機種の選定

作業種別	土運船			引船			摘要
	規格	単位	数量	規格	単位	数量	
1 日当り平均浚渫量 215m ³ 以下	密閉式 100m ³ 積	隻	2	鋼製 D300PS 型 25GT	隻	2	
1 日当り平均浚渫量 <u>216m³ 以上</u> 645m ³ 以下	密閉式 300m ³ 積	"	2	鋼製 D500PS 型 40GT	"	2	

(注) [略]

- 4-5-2 編成人数
 土運船及び引船の日当り編成人数は、次表を標準とする。

表 4. 7 日当り編成人数 (人/日)

作業種別	土運船		引船	
	普通船員	高級船員	普通船員	高級船員
1 日当り平均浚渫量	2	2	—	

215m ³ 以下			
1日当り平均浚渫量 <u>215m³を超え</u> 645m ³ 以下	2	2	2

4-5-3 浚渫土運搬作業日数

土運船による浚渫土の運搬作業日数は、浚渫作業日数を計上するものとする。また、運搬作業1日当り作業内容は、次のとおりである。

①～④ [略]
[略]

4-6 浚渫土揚土費
[略]

4-6-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 8 機種を選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
1日当り平均浚渫量 365m ³ 以下	バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型 <u>(2011年規制)</u> 山積 1.4m ³ (平積 1.0m ³)	台	1	
1日当り平均浚渫量 <u>365m³を超え</u> 645m ³ 以下			〃	2	

4-6-2 [略]

4-7 [略]

5. [略]

6. 雑工事費

(1) 出水期における浚渫船の安全対策が必要な場合は、河川及びダム状況により繋留設備又は待避溝の設置を見込むとともに浚渫船待避に要する費用を別途計上する。

(2) [略]

7. 単価表

(1) バックホウ浚渫船 (〇〇m³) 運転1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人	1	表 4. 3
普通船員		〃	2	〃
運転手 (特殊)		〃	1	〃
バックホウ浚渫船運転	D 〇〇m ³	日	1	機械損料
汚濁防止枠		供用日	1.51	必要に応じて計上 機械損料
計				

(注) 汚濁防止膜は別途計上する。

(2) [略]

(3) 土運船 (〇〇〇m³積) 運転1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人		表 4. 7
普通船員		〃		〃
引船運転	鋼製 D 〇〇〇PS 型 〇〇GT	日		表 4. 6、表 4. 7 機械損料
土運船	〇〇式 〇〇〇m ³ 積	供用日		表 4. 6、表 4. 7 <u>(注) 2</u>

215m ³ 以下			
1日当り平均浚渫量 <u>216m³以上</u> 645m ³ 以下	2	2	2

4-5-3 浚渫土運搬作業日数

土運船による浚渫土の運搬作業日数は、浚渫作業日数を計上するものとする。なお、運搬作業1日当り作業内容は、次のとおりである。

①～④ [略]
[略]

4-6 浚渫土揚土費
[略]

4-6-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 8 機種を選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
1日当り平均浚渫量 365m ³ 以下	バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型 <u>(第1次基準値)</u> 山積 1.4m ³ (平積 1.0m ³)	台	1	
1日当り平均浚渫量 <u>366m³以上</u> 645m ³ 以下			〃	2	

4-6-2 [略]

4-7 [略]

5. [略]

6. 雑工事費

(1) 出水期における浚渫船の安全対策が必要な場合は、河川及びダム状況により繋留設備又は待避溝の設置を見込むとともに浚渫船待避に要する費用を計上する。

(2) [略]

7. 単価表

(1) 浚渫船 (〇〇m³) 運転1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人	1	表 4. 3
普通船員		〃	2	〃
運転手 (特殊)		〃	1	〃
バックホウ浚渫船運転	D 〇〇m ³	日	1	機械損料
汚濁防止枠		供用日	1.51	必要に応じて計上 機械損料
計				

(2) [略]

(3) 土運船 (〇〇〇m³積) 運転1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人		表 4. 7
普通船員		〃		〃
引船運転	鋼製 D 〇〇〇PS 型 〇〇GT	日		表 4. 6、表 4. 7 機械損料
土運船	〇〇式 〇〇〇m ³ 積	供用日		表 4. 6、表 4. 7 <u>日当り機械損料に機械損料数量を乗じて計上する。</u>

				【指定事項】 機械損料数量→1.50
計				

(注) 1.・2. [略]

(4) 浚渫土揚土1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・ 排出ガス対策型 <u>(2011年規制)</u> 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	日		表4.8 機械損料
計				

(5) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ浚渫船	D 1.0m ³	機-24	燃料消費量 → <u>287</u> 機械損料数量→1.51
	D 2.0m ³		燃料消費量 → <u>413</u> 機械損料数量→1.51
引 船	鋼製 D300PS 型 25GT	機-24	燃料消費量 →409 機械損料数量→1.50
	鋼製 D500PS 型 40GT		燃料消費量 →679 機械損料数量→1.50
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型 <u>(2011年規制)</u> 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 → <u>144</u> 機械損料数量→1.50

③ [略]

				【指定事項】 機械損料数量→1.50
計				

(注) 1.・2. [略]

(4) 浚渫土揚土1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・ 排出ガス対策型 <u>(第1次基準値)</u> 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	日		表4.8 機械損料
計				

(5) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ浚渫船	D 1.0m ³	機-24	燃料消費量 → <u>252</u> 機械損料数量→1.51
	D 2.0m ³		燃料消費量 → <u>371</u> 機械損料数量→1.51
引 船	鋼製 D300PS 型 25GT	機-24	燃料消費量 →409 機械損料数量→1.50
	鋼製 D500PS 型 40GT		燃料消費量 →679 機械損料数量→1.50
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型 <u>(第1次基準値)</u> 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 → <u>150</u> 機械損料数量→1.50

③ [略]

6. 管水路工

①・② [略]

③ 強化プラスチック複合管機械布設（たて込み簡易土留）

1. ～3. [略]

4. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ（クレーン機能付）	排出ガス対策型（第2次基準値）	機-28	運転労務数量 →1.00
	クローラ型山積 0.8m ³		燃料消費量 →48
	（平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊		機械賃料数量 →1.12

④ ダクタイトル鉄管機械布設（たて込み簡易土留）

1. ・2. [略]

3. 機種の選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械

管径 (mm)	K・T形		
	1・2種	3・4種、DA種	DB～DD種
300未満	バックホウ（クレーン機能付） 排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊		
300			
350			
400			
450			
500			
600			
700			
800			
900			
1,000	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型（第2次基準値） （油圧伸縮ジブ型） 25t 吊		
1,100			
1,200			
1,350			
1,500			
1,600(4m)			
1,600(5m)			
1,650(4m)			
1,650(5m)			
1,800(4m)			

6. 管水路工

①・② [略]

③ 強化プラスチック複合管機械布設（たて込み簡易土留）

1. ～3. [略]

4. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ（クレーン機能付）	排出ガス対策型（第2次基準値）	機-28	運転労務数量 →1.00
	クローラ型山積 0.8m ³		燃料消費量 →51
	（平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊		機械賃料数量 →1.12

④ ダクタイトル鉄管機械布設（たて込み簡易土留）

1. ・2. [略]

3. 機種の選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械

管径 (mm)	K形				T形			
	1～2.5種	3～4.5種	5種	DC, DD種	1～2.5種	3～4.5種	5種	DC, DD種
300未満	バックホウ（クレーン機能付） 排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊				バックホウ（クレーン機能付） 排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊			
300								
350								
400								
450								
500								
600								
700								
800								
900								
1,000	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型（第2次基準値） （油圧伸縮ジブ型） 25t 吊				ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型（第2次基準値） （油圧伸縮ジブ型） 25t 吊			
1,100								
1,200								
1,350								
1,500								
1,600(4m)								
1,600(5m)								
1,650(4m)								
1,650(5m)								
1,800(4m)								

1,800(5m)	
2,000(4m)	
2,000(5m)	

ラフテレーンクレーン
排出ガス対策型(第2次基準値)
(油圧伸縮ジブ型) 50t 吊

(注) 1.・2. [略]

4. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管(直管)と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

表4.1 ダクタイル鋳鉄管布設歩掛 [略]

- (注) 1. 布設に伴う材料の移動手間を含む。
2. 諸雑費として、管材の0.1%を計上するものとする。
なお、諸雑費は接合用滑材の費用及びレバーブロックの損料である。
3. 各種管の製作範囲は、型式及び管種により違うためJISまたはJDPAを参照し適用すること。

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>48</u> 機械賃料数量→1.12

⑤ [略]

⑥ 高密度ポリエチレン管機械布設

1. ~ 3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>28</u> 機械賃料数量 →1.33

⑦ [略]

1,800(5m)	
2,000(4m)	
2,000(5m)	

①ラフテレーンクレーン
排出ガス対策型(第2次基準値)
(油圧伸縮ジブ型) 50t 吊

(注) 1.・2. [略]

4. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管(直管)と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

表4.1 ダクタイル鋳鉄管布設歩掛 [略]

- (注) 1. 布設に伴う材料の移動手間を含む。
2. 諸雑費として、管材の0.1%を計上するものとする。
なお、諸雑費は接合用滑材の費用及びレバーブロックの損料である。
[新設]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>51</u> 機械賃料数量→1.12

⑤ [略]

⑥ 高密度ポリエチレン管機械布設

1. ~ 3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>30</u> 機械賃料数量 →1.33

⑦ [略]

7. 道路工

①・② [略]

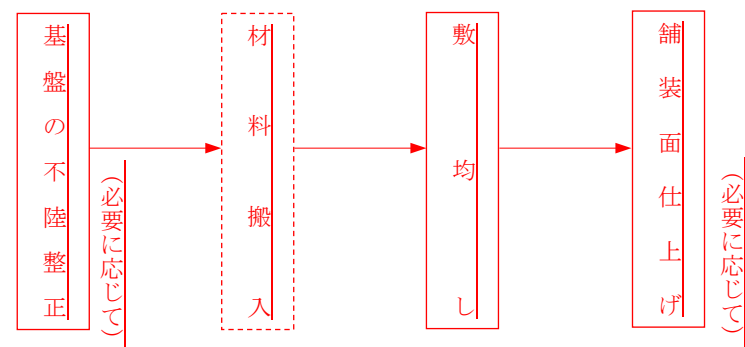
③ 砂利舗装工

1. 適用範囲

本歩掛は、耕作道路等における砕石等の敷均し作業に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
2. 路床の掘削作業は含まない。

3. 歩掛の適用区分

歩掛の適用区分は、次表を標準とする。

表3.1 適用歩掛区分

適用範囲	敷均し区分	舗装面仕上げ区分
敷均し幅 2.5m以上	バックホウ敷均し	振動ローラ コンバインド型
敷均し幅 2.0m以上2.5m未満	小型バックホウ敷均し	振動ローラ ハンドガイド式
敷均し幅 2.0m未満	人力敷均し	

4. 作業歩掛

4-1 機械敷均し

敷砂利仕上がり厚さは、5cm以上20cm以下に適用する。

4-1-1 機種の選定

機種は、次表を標準とする。

表4.1 適用機種

機種	規格
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.28m ³ (平積0.20m ³)
小型バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.13m ³ (平積0.10m ³)

4-1-2 作業歩掛

敷均しにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表4.2 作業歩掛

(100m²当り)

機種	作業内容	世話役 (人)	普通作業員 (人)	敷均し機械 運転時間 (hr)	敷均し機械 運転日数 (日)

7. 道路工

①・② [略]

[新設]

バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.20	0.62	2.5	-
		舗装面仕上げ有り	0.32			
	不陸整正 + 敷均し	舗装面仕上げ無し	0.20	0.96	3.8	-
		舗装面仕上げ有り	0.32			
小型バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0.69	-	0.4
		舗装面仕上げ有り	0.35			
	不陸整正 + 敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0.99	-	0.9
		舗装面仕上げ有り	0.35			

4-2 人力敷均し

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

ただし、敷砂利仕上がり厚さが20cm以下に適用する。

表4.3 人力敷均し歩掛 (100m²当り)

作業内容	普通作業員(人)
敷均し	1.0
不陸整正 + 敷均し	1.8

(注) 現地条件により仮置き場からの小運搬作業が必要な場合は別途計上する。

4-3 舗装面仕上げ

4-3-1 作業歩掛

舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。

表4.4 施工歩掛 (100m²当り)

機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数 (日)
振動ローラ 排出ガス対策型(第2次基準値)コンバインド型	3~4t	0.2
振動ローラ ハンドガイド式	0.5~0.6t	0.3

(注) 1. 舗装面仕上げは、横断勾配等を指定する場合、ほ場への路面排水等の流出防止、または飛散防止の必要がある場合、第三者の通行が見込まれる場合等の簡易な締固め作業であり、締固め密度を必要とする場合は、別途計上する。

2. 振動ローラコンバインド型3~4t及び振動ローラハンドガイド式0.5~0.6tは、賃料とする。

5. 敷砂利の使用量

敷砂利の使用量は、次式により算定する。

100m²当り敷砂利の使用量 (m³)

=100×敷砂利仕上がり厚さ(m)×(1+K)……(式5.1)

K:材料割増率

表5.1 材料割増率(K)

歩掛区分	材料割増率	
	舗装面仕上げ無し	舗装面仕上げ有り
機械敷均し	0.16	0.19
人力敷均し	0.06	0.18

6. 単価表

(1) 砂利舗装工(機械) 100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表4. 2
普 通 作 業 員		人		〃
舗 設 材		m ³		式5. 1
バ ッ ク ホ ウ 運 転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.28m ³ (平積0.20m ³)	h		表4. 2
小型バックホウ運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.13m ³ (平積0.10m ³)	日		〃
振 動 ロ ー ラ 運 転	排出ガス対策型 (第2次基準値) コンバインド型 3～4t	〃		表4. 4 必要に応じて計上する
〃	ハンドガイド式 0.5～0.6t	〃		〃
計				

(2) 砂利舗装工 (人力) 100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表4. 3
舗 設 材		m ³		式5. 1
振 動 ロ ー ラ 運 転	ハンドガイド式 0.5～0.6t	日		表4. 4 必要に応じて計上する
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.28m ³ (平積0.20m ³)	機-1	
小型バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.13m ³ (平積0.10m ³)	機-30	運転時間=5.7hr/日
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型 (第2次基準値) コンバインド型 3～4t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →21 機械賃料数量 →2.38
〃	ハンドガイド式 0.5～0.6t	機-31	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →4.1 機械賃料数量 →1.59

8. ほ場整備工

①～③ [略]

[削る。]

8. ほ場整備工

①～③ [略]

④ 自動埋設暗渠工

1. 適用範囲

本歩掛は、自動埋設（トレンチャ型）専用機により、掘削から暗渠排水管布設、及び被覆材投入までを行う作業に適用する。

1-1 適用する土質は粘性土とする。

1-2 掘削深さは0.5～0.8mとする。

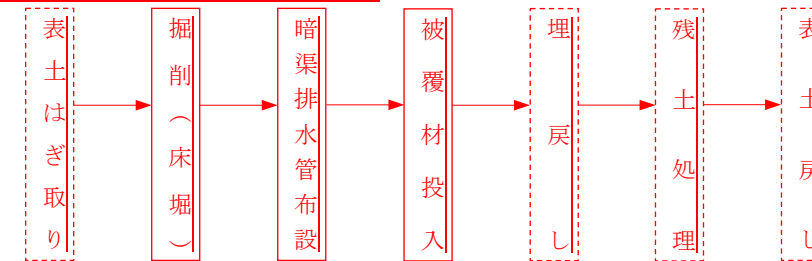
1-3 掘削幅は15cmを標準とする。

1-4 管径は50mm程度、管長はロール物100mを標準とする。

1-5 被覆材はモミガラを標準とし、投入数量は設計数量×1.25とする。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

2. 暗渠排水管及び被覆材の材料費は別途計上する。

3. 機種の選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種選定

作業	機械名	規格
自動埋設暗渠	トレンチャ	自走式・自動埋設型クローラ 35 kW、最大掘削深 1.3m 級

4. 施工歩掛

4-1 掘削深別 1 時間当り作業量 (L)

表 4. 1 掘削深別 1 時間当り作業量

掘削深 (m)	0.50	0.55	0.60	0.65	0.70	0.75	0.80
1 時間当り作業量 (L)	227m	217m	208m	198m	189m	180m	170m

4-2 補助労務等

機械の運転 1 日当り補助労務等歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 2 労務歩掛 (1 日当り)

名称	単位	数量
世話役	人	1
普通作業員	人	4
軽作業員	人	1

(注) 被覆材のほ場内運搬手間を含む。

4-3 運転労務

4-3-1 トレンチャの運転労務は、別途計上する。

5. 単価表

(1) 自動埋設暗渠工 1m 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
トレンチャ 運 転	自動埋設型クローラ 35 kW	h	1/L	表 4. 1
世 話 役		人	(1/T)/L	表 4. 2
普 通 作 業 員		〃	(4/T)/L	〃
軽 作 業 員		〃	(1/T)/L	〃
計				

(注) T : トレンチャの 1 日 当り 運 転 時 間

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
ト レ ン チ ャ	自動埋設型クローラ 35 kW	機-1	

13. 仮設工

① 瀝青材散布

1. ～4. [略]

5. 作業歩掛

5-1・5-2 [略]

5-3 トラックの運転時間

ディストリビュータのベースとなるトラックの100m²当り運転時間は、次式とする。

トラックの100m²当り運転時間

=100m²当り設計散布量/ディストリビュータの時間当り散布量……(式5.2)

時間当り散布量 表4.1

6. [略]

7. 単価表

(1) [略]

(2) 瀝青材散布工 (ディストリビュータ) 100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表5.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
瀝 青 材		ℓ		式4.1
ディストリビュータ運転		日		式5.1
<u>ト ラ ッ ク 損 料</u>	<u>4.0～4.5t積</u>	<u>時間</u>		<u>式5.2</u>
諸 雑 費		式	1	表6.1
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
アスファルトエンジンスプレーヤ	車載式 2.6kW 25ℓ/min	機-12	燃料消費量→3.2 主 燃 料→ガソリン
ディストリビュータ	自走式 (トラック架装式) 2,000～3,000ℓ	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→33
<u>ト ラ ッ ク</u>	<u>4.0～4.5t積</u>	<u>機-13</u>	<u>燃料消費量はディストリビュータに含む</u>

②～④ [略]

⑤ 運搬(伐開、除根、除草)

1. ～3. [略]

13. 仮設工

① 瀝青材散布

1. ～4. [略]

5. 作業歩掛

5-1・5-2 [略]

[新設]

6. [略]

7. 単価表

(1) [略]

(2) 瀝青材散布工 (ディストリビュータ) 100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表5.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
瀝 青 材		ℓ		式4.1
ディストリビュータ運転		日		式5.1
[新設]	[新設]	[新設]		[新設]
諸 雑 費		式	1	表6.1
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
アスファルトエンジンスプレーヤ	車載式 2.6kW 25ℓ/min	機-12	燃料消費量→3.2 主 燃 料→ガソリン
ディストリビュータ	自走式 (トラック架装式) 2,000～3,000ℓ	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→33
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]

②～④ [略]

⑤ 運搬(伐開、除根、除草)

1. ～3. [略]

4. 単価表
(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ダンプトラック	10t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→60 機械損料数量→1.29

⑥ 地盤改良工(仮設道路基礎)

1. 適用範囲

本歩掛は、仮設道路の基礎地盤をバックホウにより地盤改良する場合に適用する。
なお、改良深度は0.5m～1.5mとし、固化材はセメント系とする。

2. ・3. [略]

4. 施工歩掛

4-1 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り施工量 (1日当り)

作 業	単 位	数 量
固化材散布、混合、敷均し	m ²	<u>90</u>

4-2 配置人員

配置人員は、次表を標準とする。

表 4. 2 配置人員 (100m²当り)

名 称	単 位	数 量
世話役	人	0.4
普通作業員	〃	<u>0.7</u>

5. 単価表

(1) 地盤改良工(仮設道路基礎)100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人	0.4	表 4. 2
普通作業員		〃	<u>0.7</u>	表 4. 2
固化材	セメント系	t		
バックホウ (クレーン機能付)運転	低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 2.9t吊	日	100/D	表 4. 1
計				

(注) 1. ・2. [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 2.9t吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →83 機械賃料数量 → <u>1.42</u>

⑦ 現場内除雪工

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1)～(4) [略]

4. 単価表
(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ダンプトラック	10t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>67</u> 機械損料数量→1.29

⑥ 地盤改良工(仮設道路基礎)

1. 適用範囲

本歩掛は、仮設道路の基礎地盤をバックホウにより地盤改良する場合に適用する。
なお、改良深度は0.5m～1.2mとし、固化材はセメント系とする。

2. ・3. [略]

4. 施工歩掛

4-1 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り施工量 (1日当り)

作 業	単 位	数 量
固化材散布、混合、敷均し	m ²	<u>116</u>

4-2 配置人員

配置人員は、次表を標準とする。

表 4. 2 配置人員 (100m²当り)

名 称	単 位	数 量
世話役	人	0.4
普通作業員	〃	<u>0.5</u>

5. 単価表

(1) 地盤改良工(仮設道路基礎)100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人	0.4	表 4. 2
普通作業員		〃	<u>0.5</u>	表 4. 2
固化材	セメント系	t		
バックホウ (クレーン機能付)運転	低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 2.9t吊	日	100/D	表 4. 1
計				

(注) 1. ・2. [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 2.9t吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →83 機械賃料数量 → <u>1.18</u>

⑦ 現場内除雪工

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1)～(4) [略]

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第3次基準値)クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>92</u> 機械賃料数量 →1.60
ホイールローダ (トラクタショベル)	排出ガス対策型(第2次基準値) 山積1.3~1.4m ³	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>23</u> 機械賃料数量 →2.20

6. [略]

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第3次基準値)クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>97</u> 機械賃料数量 →1.60
ホイールローダ (トラクタショベル)	排出ガス対策型(第2次基準値) 山積1.3~1.4m ³	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>24</u> 機械賃料数量 →2.20

6. [略]